

## 『RDG レッドデータガール1 はじめてのお使い』

荻原 規子／著 角川書店（2008年）

山伏の修験場として世界遺産に認定される玉倉神社に生まれ育った鈴原泉水子。地元の外津川高校に進学しようと考えていたが、父に東京の高校進学を薦められる。なにやら泉水子も知らない自分の生い立ちや家系に関係がありそうだ。



## 『少年少女飛行倶楽部』

加納 朋子／著 文藝春秋（2009年）

飛行クラブの活動内容。空を飛ぶことを目的とする。以下、「空を飛ぶこと」に関する条件。  
うんぬんかんぬん…。ってなんじゃこりゃ。

なんであんたの恋のためにこんな得体の知れないあやしい部活動に私を引っ張りこもうとしてるのよ。



## 『四月は霧の<sup>ラブラブ</sup>00密室 私立霧舎学園ミステリー白書』

霧舎 巧／著 講談社（2002年）

転校初日から遅刻なんて最悪だ。羽月琴葉は焦っていた。門扉を乗り越え学園に入ったのはいいものの、霧が垂れ込めてきて、琴葉はあっという間に霧に呑み込まれてしまった。そんな中最悪の出会いをした男の子。学園の伝説そのままの出会いをしたことに琴葉はまだ気づいていない。

## 『放課後はミステリーとともに』

東川 篤哉／著 実業之日本社（2011年）

僕の名前は霧ヶ峰涼。現在、私立鯉ヶ窪学園の高校2年生だ。そして僕は探偵部で副部長という大役を担っている。探偵部とは何か。それはまさしく、探偵活動をおこなうことを趣旨とした、探偵たちの集合体である。（まだ公式な部活動とは認定されていない。）



さあ、事件よ来い！

## 『王国は星空の下 北斗学園七不思議①』

篠田 真由美／著 理論社（2007年）

深い森にかこまれた全寮制の北斗学園。中等部二年で新聞部の三人、行動派のアキ、慎重派のハル、知性派のタモツたちは学園に伝わる「七不思議」を探ろうとする。探れば探るほどこの学園には謎がでてくる。



## 『桐島、部活やめるってよ』

朝井 リョウ／著 集英社（2010年）

バレー部の桐島が部活をやめた。俺のいつも前を歩いていた桐島。桐島がいなくなって俺は不安になるのか、視界が空けたとすがすがしく感じるのか、考えるほど自分が嫌な奴になっていく。

この事件をきっかけとして動きを見せる同じ高校生5人の細やかな日常の連作集。